

日時：二〇一〇年三月二一日(日) 聖日礼拝

主題『使命を貫く者の生き様』説教者：野田勝利師、藤林いざや師
聖書箇所：使徒言行録二一章一五節～二六節

15 数日たつて、わたしたちは旅の準備をしてエルサレムに上った。16 カイサリアの弟子たちも数人同行して、わたしたちがムナソンといつう人の家に泊まれるように案内してくれた。ムナソンはキプロス島の出身です。ここ以前から弟子であつた。

17 わたしたちがエルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで迎えてくれた。18 翌日、パウロはわたしたちを連れてヤコブを訪ねたが、そこには長老が皆集まつていた。19 パウロは挨拶を済ませてから、自分の奉仕を通して神が異邦人の間で行われたことを詳しく説明した。20 これを聞いて、人々は皆神を賛美し、パウロに言った。兄弟よ、存じのよつに幾万人ものユダヤ人が信者になつて、皆熱心に律法を守っています。21 この人たちがあなたについて聞かされていることによつて、あなたと異邦人の間にある全ユダヤ人に対して、子供に割礼を施すな、慣習に従うなと言つて、キセから離れるよつに教えているのです。22 いたいどついたらよいでしょつか。彼らはあなたのために来られたことをきつて耳にします。23 だから、わたしたちの言つておりにしてください。わたしたちの中に誓願を立てた者が四人います。24 この人たちを連れて行つて一緒に身を清めてもらひ、彼らのために頭をそめる費用を出してください。そうすれば、あなたについて聞かされていることが根も葉もなく、あなたは律法を守つて正しく生活して、いぬとつうことがみんなに分かります。25 また、異邦人を信者になつた人たちについては、わたしたちは既に手紙を書き送りました。それは、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口にしないよつに、また、みだらな行いを避けるよつに、この二つに決定です。26 そこで、パウロはその四人を連れて行つて、翌日一緒に清めの式を受けて神殿に入り、いつ清めの期間が終わつて、それぞれのために供え物を献げることができると告げた。

(聖書講解)

A 《兄弟たちは喜んで迎えてくれた》とは、パウロとその一行が、ムナソンのような、ヘレニストユダヤ人のキリスト者たちから歓迎された、ということであつて、エルサレム教会全体から歓迎されたわけではない。

B パウロたちがヤコブを訪問したとき、エルサレム教会の長老たちはすでに会議を開いていた。パウロに反対する人々がいたからである。

C 二一節のパウロ告発の記述は、パウロがエルサレムにいる多くの律法に忠実な(の間で、反律法主義の扇動者として知られていたことを示している。

D このままではユダヤ人たちから、パウロが(される危険があつた。そこで、パウロが律法に忠実なファリサイ派であることを明示するために、四人のナジル人の誓願の費用をパウロが負担し、彼もまた四人と一緒に誓願するように、ヤコブが勧告したので、パウロはこれを受けることになる。

E しかし、律法からの自由を主張しているはずのパウロがなぜ、ここで祭儀律法を遵守したのか。それは、第三次宣教旅行で各教会から寄せられたエルサレム教会への(をどうしても受け取つてもらつたためであつた。

参照)「コリントの」聖なる者たちのための募金については、わたしがガラテヤの諸教会に指示したように、あなたがたも実行しなさい。わたしは、わたしがそちらに着いてから初めて募金が行われることのないように、週の初めの日にはいつも、各自収入に応じて、幾らかずつでも手もとに取って置きなさい。そちらに着いたら、あなたがたから承認された人たちに手紙を持たせて、その贈り物を届けにエルサレムに行かせまじょう。わたしも行く方がよければ、その人たちはわたしと一緒に行くことにならざるべし。

F・献金は、エルサレム教会と異邦人教会との「交わり」のしるしでもあった。そのうえこの献金受領は、パウロが生命を賭けて戦った律法からの自由の福音を、エルサレムの教会の指導者たちに承認してもらい、かつユダヤ人教会とパウロの諸教会との一致を示すためでもあった。

D・ユダヤ人 E・迫害 F・献金

メッセージポイント

使命に生きる者は、本質以外のことについて

ては)する。

()とは、**信仰者のミッション**
ステートメント(使命の表現)である。